

を制止し更に一團となるや表門に迫り、「門を開けよ」と口々に叫び立て煉瓦、石塊、鐵片の類を雨霰と降りし唸りを生じて門内へ落下する光景物凄く守警詰所は瞬くの中、硝子全部粉微塵に碎かれ頗る危険に瀕したるため警備隊も今は影を潜むるや狂亂せる職工は守警詰所より飛込むもの或ひは鐵管を揮つて板塀を打破る者などあり遂に表大門を破壊して喊聲を上げて侵入するに到る。

是と殆ど同時に電機工場裏門に守警と押問答し居たる造船所職工の一團も亦「バンドクレーン」を用ひて門を打破つて亂入し、工場内は名狀すべからざる混亂状態に陥り労働歌にて破れん許りなり約二十分間場内を練り廻れる職工は折柄嘆願書を提出して引揚げ來たれる電機部委員を捉へ加盟せしめ喊聲をあげ造船部の一部は再び裏門より他は表門へ午前十時十分引揚げたり。此騒動のため内燃機の職工坂茂夫は礫の如く飛來したる投石に打たれ右腮に負傷し他にも十數の輕傷者を生じたり。

同時刻、海岸より引返して來たれる内燃機職工五六百名は「内燃機工場に入れ」と異口同音に叫びつゝ海嘯の如く内燃機工場の職工通用門に押蒐け煉瓦の破片を投げ蹴く裡に守警詰所の硝子窓を悉く破壊したり。此詰所に一人踏ハ止まれる兵庫署福岡警部補は顔面に負傷したるも屈せず極力鎮撫に努め一方青柳章の委員は屋根の上より制止すれども寸効無く遂に門を打ち開き労働歌を高唱しつゝ押し入りたるが職工中兵庫笠松通六（日二十四番金下良松（三四）外三名警官に拘束訓戒されしを見て怖氣付き引潮の如く退出せり何分同工場は海軍秘密工場とされる爲め其筋にても極力侵入喰ひ止めに努めし

が應援として郡部より召集されし警官中社警察署の巡查甲斐儀之進氏（二六）は瓦礫のため後頭部に全治二週間を要する傷を負ひ三菱病院の手當を受ける等一時殺氣立てる職工は如何なる椿事を惹起せんかと危懼されたるが幸ひ其筋の措置宜しきを得て無事鎮まり造船所前の廣場に竹の旗竿のみ押し立てた職工二千餘名は隊伍を整へ市中へ示威運動の爲め流れ出でたり。斯くて午後一部居残れる造船部の職工も無事退出し土屋保安課長は自動車を驅つて實地檢分する所あり。間もなく門破り投石の首魁内燃機職工金下良松（三四）電機部職工中澤某外三名は兵庫署に引致されたり。夜は吉田新田公會堂にて職工側演説會を開き氣勢を高め且、各工場委員は第二互助俱樂部に集合し議を凝らせり。

## 十二、電機部蹶起と暴行

此日の形勢險惡と見たる三菱電氣工作部にては、西山庶務課長より懇々慰撫する所あり平穩に歸せんとするや内燃機、造船部等の職工承知せず「我々と行動を一緒にせよ」と頻に威赫的態度に出し爲め怠業状態に入り、更に委員を改めて嘆願書を提出する事に決し、内燃機より代表的に妥協を申出でたる一名の委員に其の旨を傳へ、交渉委員長玉利信、委員江上茂逸、金津伊作、鹽月秀吉の諸氏を始め、九名の委員は左記の嘆願書を携へて笠原電機工場長に會見を申込み、會社側は同十一時西山庶務課長立會の上、笠原工場長會見すべき旨を委員に通知したり。かくて十一時交渉委員長玉利信、委員